

風のひと・水のまち・土のいのち

～堀割が教えてくれるまちづくり～

日本大学大学院 泉山 墨威
大阪大学大学院 洲濱 有紀子
弘前大学大学院 津田 純佳
福岡大学大学院 永田 哲也
九州大学大学院 原田 慧

柳川市の概要

- 福岡県柳川市
- 総人口: 74570人
- 面積: 76.90km²
- 堀割と舟下り、ウナギで有名な観光地



水郷柳川こそは、
生活の舞台である

この堀割こそは、
まちの景観の母體である

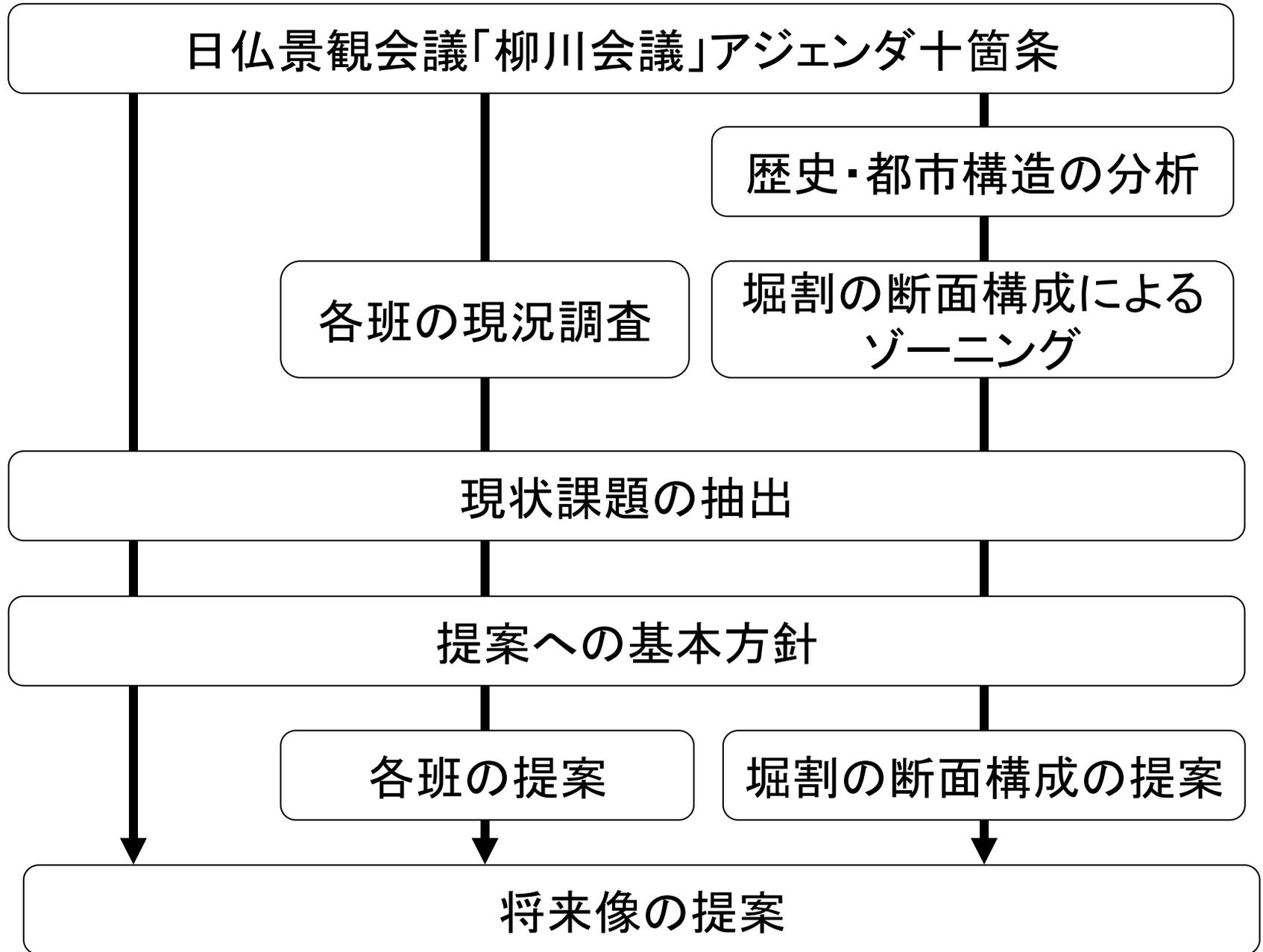
この断面構成、

この水のネットワークにして、

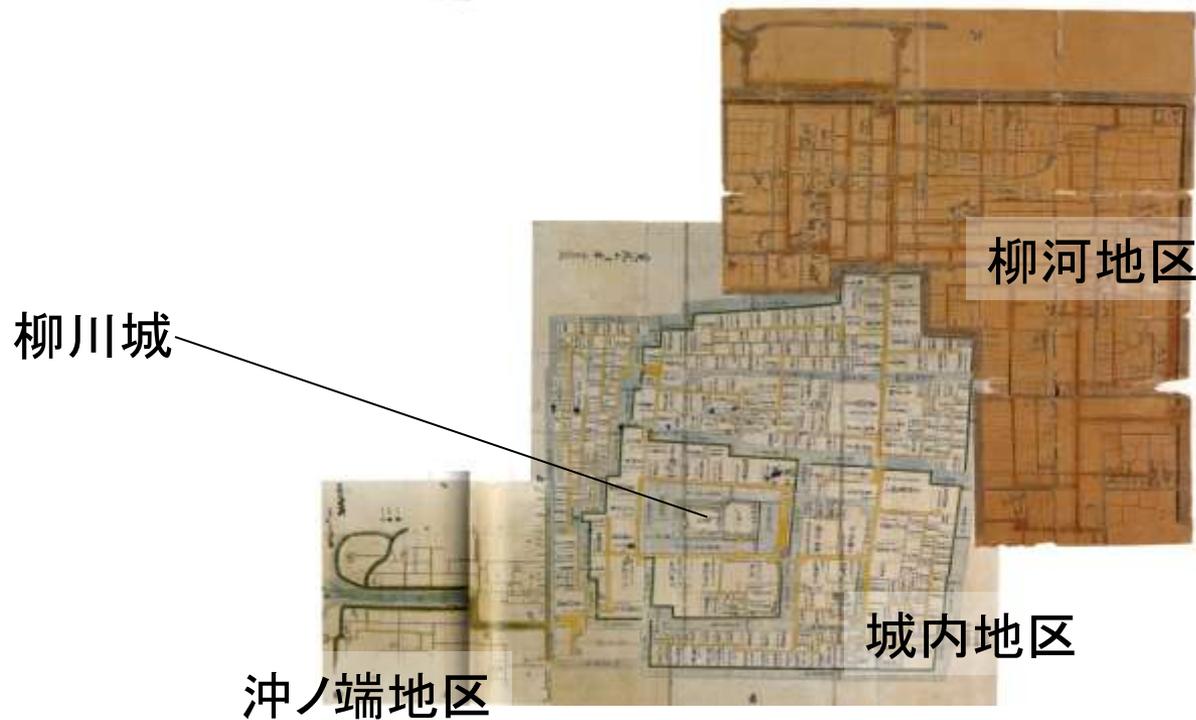
はじめて、

まちの生活景は生じ、
まちの修景が成る

分析から提案までのフロー



柳川市の都市構造



柳川は柳川城を中心に城下町として堀割により発達した。現在でもその名残から、内堀、外堀で構成された範囲は城内地区、西には漁師町の沖ノ端地区、北東の商人町は柳河地区と呼ばれている。しかし、現在歴史的な建築物などはほとんど見られず、城下町の面影が残っていない。

柳川市の都市構造



柳川は柳川城を中心に城下町として堀割により発達した。
現在でもその名残から、内堀、外堀で構成された範囲は城内地区、西には漁師町の
沖ノ端地区、北東の商人町は柳河地区と呼ばれている。
しかし、現在歴史的な建築物などはほとんど見られず、城下町の面影が残っていない。

柳川の生活景



堀割で洗濯



堀割で遊ぶ子供たち

観光としての舟下り

かつての堀割は生活の一部であったが、現在では機能性や利便性を優先してきた発展の一方で、堀割は生活とは密着しなくなった。
今、堀割と生活景、堀割と観光の関係が柳川に問われている・・・。

引用:「水の郷2 かよいあう水と日々」、柳川市、平成7年

柳川の生活景



堀割で洗濯



観光としての舟下り



かつての堀割は生活の一部であったが、現在では機能性や利便性を優先してきた発展の一方で、堀割は生活とは密着しなくなった。
今、堀割と生活景、堀割と観光の関係が柳川に問われている・・・。

引用:「水の郷2 かよいあう水と日々」、柳川市、平成7年

堀割特性マップ

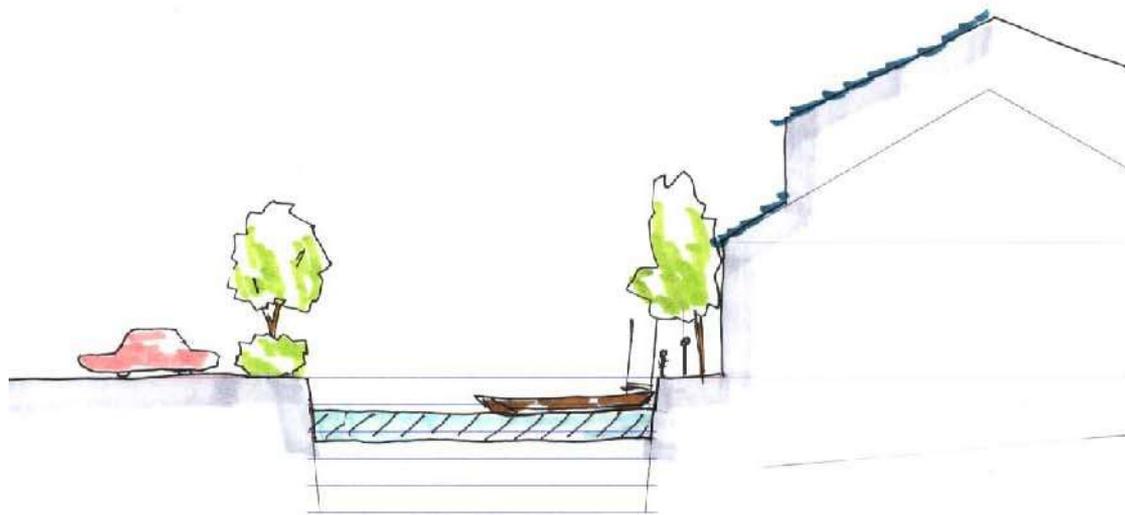
歴史的背景やまちあるきによるゾーニング

⇒断面図から地域特性や地域が抱える問題点を抽出

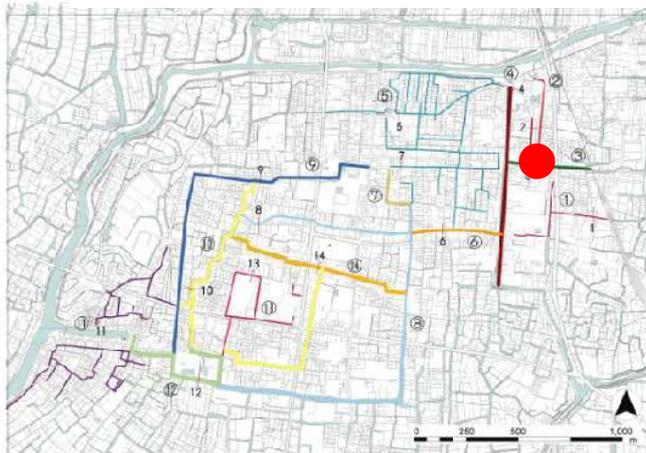


断面図による現状分析①

柳河地区



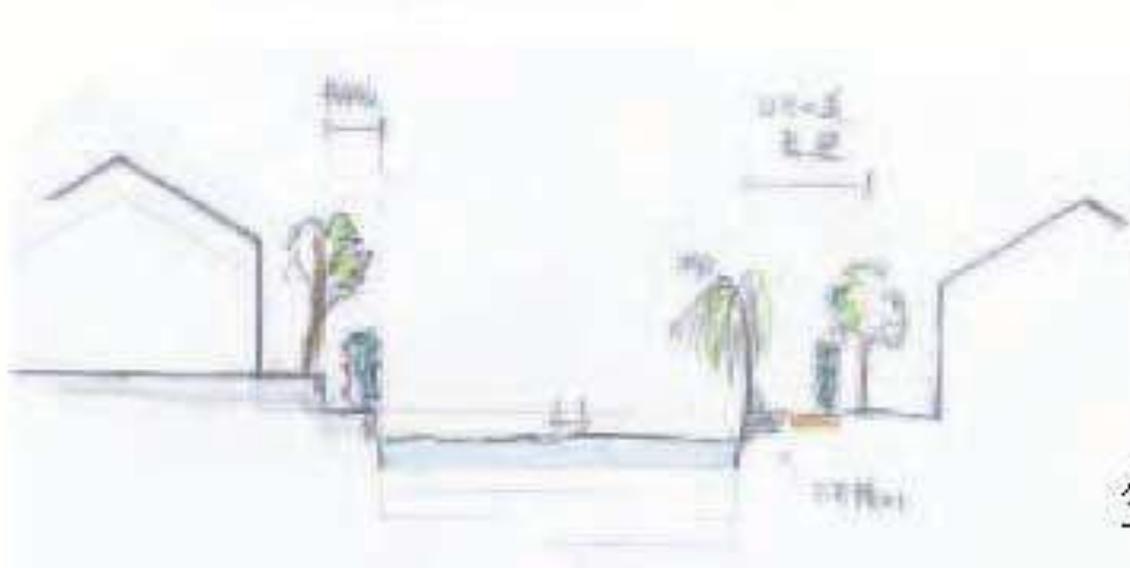
舟下りの玄関口



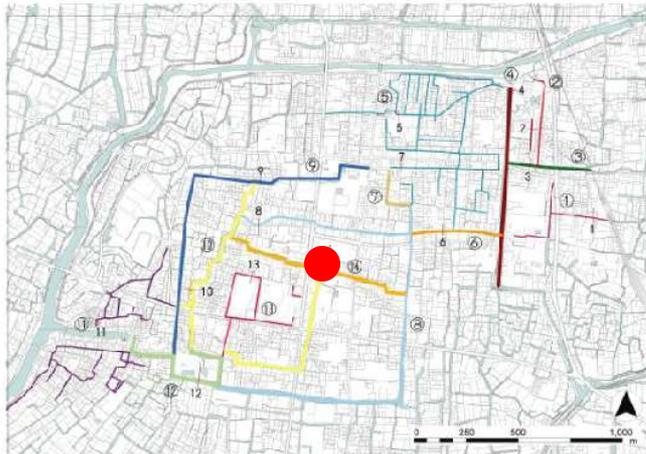
堀割の舟下りの乗船場
堀割と柳並木とふるい木造建築

断面図による現状分析②

城内地区



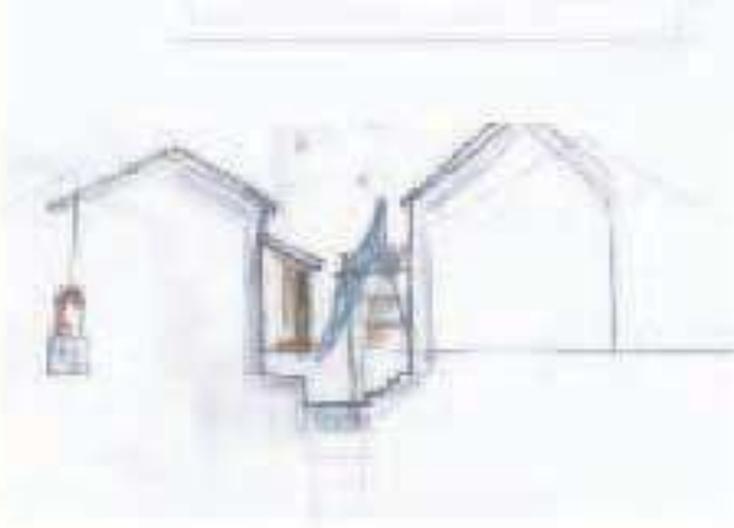
生垣と柳で閉じた道



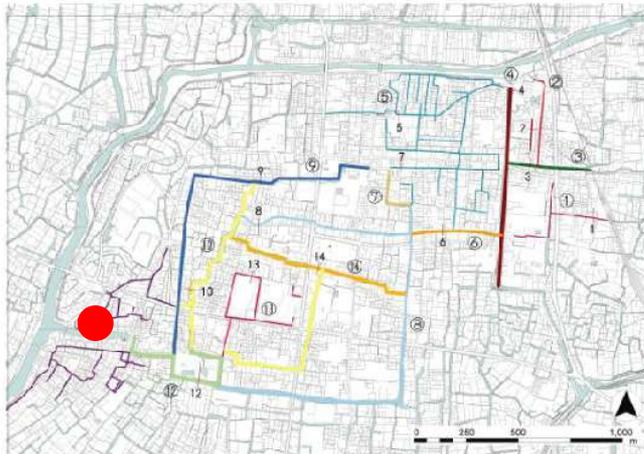
観光スポットとして有名な日本の道百選の散歩道も、
単調な構成で視点場が少ない

断面図による現状分析③

沖ノ端地区



堀まであふれた漁師生活



堀の上に出窓や漁の道具などはみ出している

現状課題図

柳川市の現状課題図



アジェンダ十箇条から以下の方針で提案する

- 地域の人々の生活景の創生を目指す
- 堀割の断面構成の見直しによって新たな親水・交流空間を創出する
- 舟下りの新たなネットワークの提案によりまち全体の散策を誘発する

各班の提案による将来像

現代版堀による生活

新規舟下りルート

辻と堀割

よらんかんも柳川

舟下りルート

堀割を活かしきる

新規舟下りルート

□ (カイ)



私たちの提案

秘密の隠れ家：沖ノ端



青春の堀：柳川城跡



- 堀割を活かしきる

- 1.新しい川下りシステムの出会い
- 2.河下りと散策の拠点を持つ
- 3.柳川節の気付き

- よらんかんも～柳川

～駅から観光拠点へのアプローチと出会いの創造～

-  (カイ) ～沖ノ端の回遊路～

- 現代版堀による生活

- 辻と堀割